

## 今日のトピック 堅調を維持する米国の社債市場（2017年8月） 相対的に利回りの高い社債への需要は引き続き強い

### ポイント1 底堅い展開 8月は株価を上回るパフォーマンス

- 2017年8月の投資適格債指数は前月末に比べ +0.75%となったのに対し、ハイールド債指数は同▲0.27%となりました（8月29日現在）。
- トランプ内閣の内紛や、北朝鮮のミサイル発射等、国内外の政治情勢に不透明感が高まったことから、リスク回避の動きが強まったためと見られます。
- ただし、S&P500種指数の同▲0.75%よりは、ともに上でした（指数はいずれもトータル・リターン指数、右図の注3を参照）。

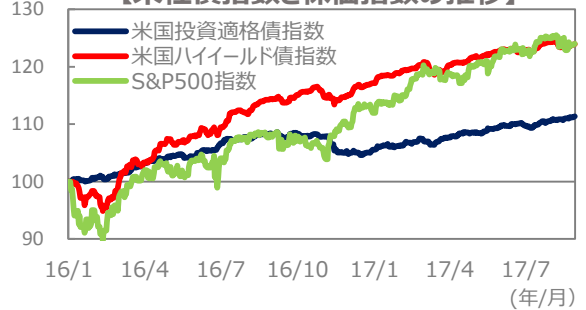
### ポイント2 社債への需要は根強い 相対的に高い利回りが魅力

- 社債スプレッド（国債と社債の利回り格差）は、投資適格債、ハイールド債とも、小幅に拡大しました。
- 米連邦準備制度理事会（FRB）は金融緩和の解除を進めていますが、物価の落ち着き等から、解除のペースは緩やかなものととめています。こうしたなか、相対的に利回りの高い社債への需要には根強いものがあります。参考までに直近の利回りは、投資適格債が約3.1%、ハイールド債が約5.7%、米国債利回り（ブルームバーグ・バークレイズ指数の残存期間7-10年）が約2.1%でした。

### 今後の展開 今後も堅調な推移が見込まれる

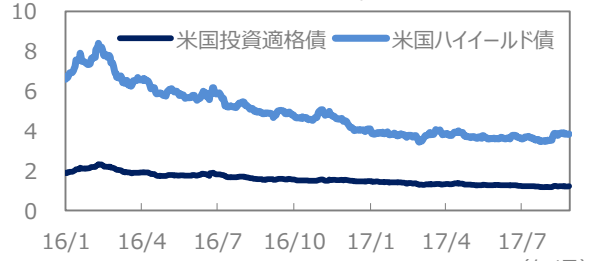
- FRBは、今秋にバランスシートの縮小（FRBが保有する国債等の債券売却）を発表、来年春頃には利上げに踏み切ると予想されますが、インフレの抑制された環境が続くこと等を踏まえると、長期金利は当面レンジ内で推移すると考えられます。
- こうした環境下では、相対的に利回りや安全性が高い投資適格債への資金流入は継続すると予想されます。一方、ハイールド債については、原油価格下落を受けたエネルギーセクターの利回り上昇は一巡するものの、北朝鮮問題等の地政学リスクが引き続き意識される展開となりそうです。

（ポイント） 【米社債指数と株価指数の推移】



(注1) データは2016年1月1日～2017年8月29日。2016年1月1日 = 100として指数化。  
 (注2) 社債指数はBloomberg Barclays米国社債指数。  
 (注3) 指数はいずれも、価格の騰落だけではなく、利子・配当も加味した総合的な収益を表すトータル・リターン指数。  
 (出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

（%） 【米国債との利回り格差】



(注1) データは2016年1月1日～2017年8月29日。  
 (注2) 対国債利回り格差は、社債利回りと国債利回りの差。社債利回りはBloomberg Barclays米国社債指数ベース。  
 (出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

### ここもチェック! 2017年8月30日 『米長期金利』が上昇しないワケ 2017年8月29日 『ジャクソンホール』会議、日本市場への影響は？

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。